

県民はお金に慎重で計画的

三重県民はお金に堅実。総務省の「家計調査」の結果から、そんな県民性が見えてくる。県庁所在地別の調査結果を二〇一七～二一年の五年分で平均すると、勤労者世帯の年間収入額は、津市が七百六十三万円で全国九位だった。一方、手取り収入に占める住居費を除く消費支出の割合は56.7%で二十三位で、稼ぎの割に財布のひもはやや固いといえる。

貯蓄は千五百八十五万円で年収の二・〇八倍。額、年収比ともに八位と上位だ。内訳は、金利が低い普通預金などの通貨性預貯金の割合が24.5%で最下位、高リスクな株式などを含む有価証券は10.6%で十四位だが、普通預金より金利が高く元本割れのリスクがない定期性預貯金は37.8%で四位、金額では一位だ。低リターンでも低リスクで確実にためようとする手堅い傾向がうかがえる。

金融広報中央委員会が今年七月発表した、お金に関する知識や判断力を問う「金融リテラシー調査」で、三重は「緊急時に備えた資金を確保している人の割合」が全国十位、「お金に関する長期計画を立て達成の努力をしている人の割合」は一位だ。三重県民は、お金と慎重かつ計画的に付き合える人が多いのだろう。

(コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上千賀子)

津市の家計の収支・貯蓄(2017~21年平均) ※総務省「家計調査」から

	年間 収入	可処分所得 に占める 消費支出 の割合	貯蓄 (年収比)	定期性 預貯金 【対貯蓄比】	通貨性 預貯金 【対貯蓄比】	有価証券 【対貯蓄比】
三重県 (津市)	763 万円	56.7%	1585万円 (2.08倍)	37.8%	24.5%	10.6%
全国順位	9位	23位	8位	4位	47位	14位

※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む(百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました)」

2022年10月27日